

普及項目	資源管理
漁業種類等	採貝漁業
対象魚類	アサリ
対象海域	熊本有明海

有明地区におけるアサリ生息状況調査

県北広域本部水産課・宮崎 孝弘

【背景・目的・目標（指標）】

県内アサリの主要産地である熊本県有明海沿岸の漁場（荒尾～網田）では、漁獲量が非常に低位で推移しており、大きな問題となっている。そこで、漁業者が行うアサリ資源管理及び増殖に係る取組みを支援することを目的として、本調査により管内のアサリ生息状況及び生産量を正確に把握し、関係者へ情報提供を行った。なお、本課では荒尾市から玉名市に係る県北地域を主に指導した。

【普及の内容・特徴】

（１）アサリ生息状況調査

調査は、各地区の主要漁場においてそれぞれ数か所定点を設定し、現地の漁業協同組合、関係市町及び熊本県漁業協同組合連合会とともに 7 月（春期）と 10 月（秋期）の年 2 回、アサリの生息状況を調査した。また、各定点では 25cm×25cm の方形枠を用いて干潟の表層底泥を 2 回採取し、4 種の縦線篩を用いて㎡当たりのサイズ別個体密度*を計数した。

*5 分貝（殻幅 15mm）、4 分貝（同 12mm）、3 分貝（同 9mm）、2 分貝（同 6mm）

（２）生産量調査

アサリ生産量について毎月 1 回各漁業協同組合から聞き取り、過年の実績と比較した。

【成果・活用】

（１）アサリ生息状況調査

令和 7 年（2025 年）秋期における 2 分貝以上の 1 ㎡当たりの生息個体数は表 1 のとおりである。最も生息個体数が高かったのは高道の 1,649 個/㎡で、過去 10 年間で最大となった。全体的に見ると荒尾南部、牛水、長洲、鍋、高道及び大浜 I では、前年度を大きく上回り、過去 3 年間と比べても高い生息個体数となった。各漁協は調査結果をもとに、これらが漁獲に繋がるよう被覆網等の保護対策を行った。

（２）生産量調査

令和 7 年（2025 年）（暦年、12 月末現在）における熊本県有明海のアサリ生産量は、表 2 のとおり 14.4 トンで、前年を大きく下回った（R6：90.1 トン）。地域別に見ると、荒尾～熊本北部長洲地域（513 トン、前年 0 トン）、菊池川河口域（11.8 トン、前年比 1,694%）、白川河口域（511 トン、前年 0 トン）は前年を上回ったが、緑川河口域（1.5 トン、前年比 1.7%）は前年を下回った。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）

表 1 荒尾・玉名管内アサリ生息状況調査結果比較（秋期調査）（2分貝以上の生息個体数/㎡）

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
荒尾北部	392	627	86	86	5	8	2	81	5	0
荒尾中部	652	319	258	258	35	20	0	264	47	23
荒尾南部	166	173	83	83	23	1	8	6	0	32
牛水	141	201	100	100	33	4	88	195	143	269
長洲	1,409	333	178	178	11	4	28	281	2	847
鍋	414	95	21	21	43	53	96	175	475	792
高道	359	254	26	26	39	48	37	838	117	1,649
大浜Ⅰ	655	66	52	52	3	5	461	137	438	684
大浜Ⅱ	367	44	88	88	0	32	0	57	291	208
横島西	225	140	12	12	44	240	1	50	707	112
横島東	126	120	149	149	198	333	169	63	577	112

表 2 県北広域本部水産課管内の地域別アサリ生産量

地域名	漁協名	R6 漁獲量(kg)	R7 漁獲量(kg)	前年比 (R7/R6,%)
荒尾～熊本北部 長洲地域	荒尾	0	0	—
	熊本北部牛水	0	513	—
	熊本北部長洲	0	0	—
菊池川河口域	岱明鍋	0	0	—
	岱明高道	0	0	—
	滑石	696	11,788	1,693.7
	大浜	0	0	—
	横島	0	0	—
白川河口域	河内	0	511	—
	松尾	0	0	—
	小島	0	0	—
	沖新	0	0	—
緑川河口域	畠口	0	0	—
	海路口	9,342	0	0.0
	川口	56,231	627	1.1
	住吉	13,972	0	0.0
	網田	9,886	921	9.3
荒尾～熊本北部長洲地域		0	513	—
菊池川河口域		696	11,788	1,693.7
白川河口域		0	511	—
緑川河口域		89,431	1,547	1.7
熊本有明 合計		90,127	14,359	15.9